

第6回 八戸市生活支援体制整備推進協議会

平成30年11月28日(水) 13時30分～
はちふくプラザねじょう 4階 第1教室

次第

1 開会

2 報告案件

報告1 住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの実施状況について ※資料1

報告2 高齢者の社会的居場所に関する調査の進捗状況について ※資料2

報告3 高齢者のごみ捨て支援について

3 審議案件

案件 高齢社会フォーラムにおける提言事項への対応について ※資料3～5
(生活支援体制整備事業関係分)

4 その他

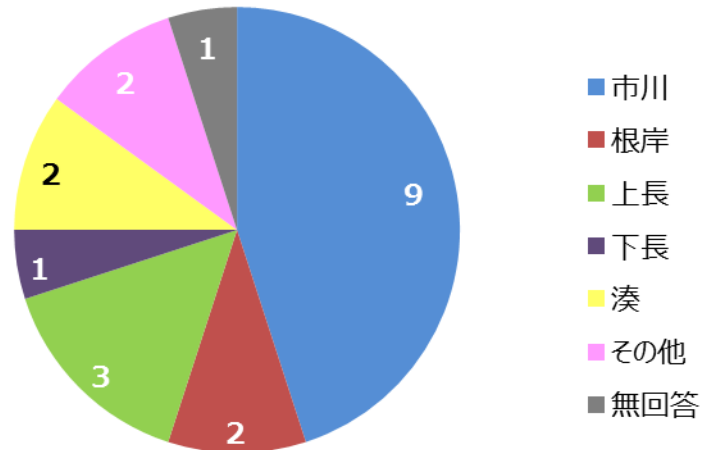
5 閉会

第 5 回 住み慣れた地域での生活を考えるワークショップ アンケート集計結果

1. 実施日 平成 30 年 11 月 4 日 (日)
2. 対象地区 市川、根岸、上長、下長、湊
3. 配布数 36 枚 ※当日の参加者数 (学生 16 人、地域関係者 20 人)
4. 回収数 35 枚 ※回収率 97.2%

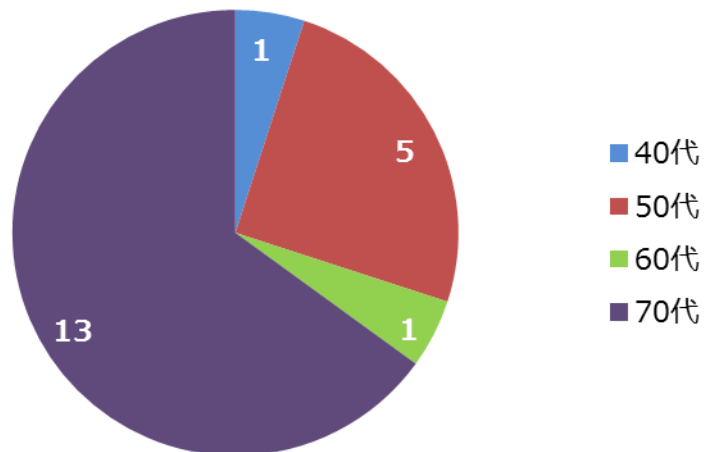
【地域住民】 あなたは、どちらの地区にお住まいですか。

地区名	人数
市川	9 人
根岸	2 人
上長	3 人
下長	1 人
湊	2 人
その他	2 人
無回答	1 人
計	20 人



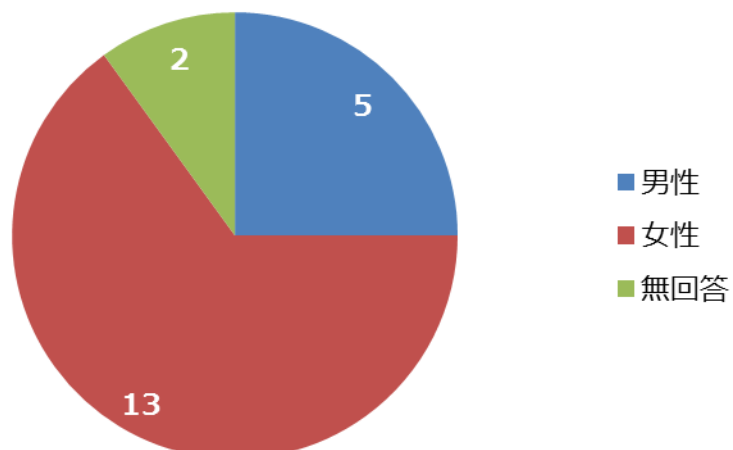
【地域住民】 あなたは、何歳ですか。

年代	人数
10 代	0 人
20 代	0 人
30 代	0 人
40 代	1 人
50 代	5 人
60 代	1 人
70 代	13 人
80 代	0 人
90 歳以上	0 人
計	20 人



【地域住民】 あなたの性別を教えてください。

性別	人数
男性	5 人
女性	13 人
無回答	2 人
計	20 人



【地域住民】 あなたが地域で行っている活動のうち最も長い活動を教えてください。

活動内容	～3年	3～5年	5～10年	10～20年	20年以上	無回答	計
保健推進員		1人				1人	2人
民生委員			2人	1人	3人		6人
町内会役員		1人		1人	2人		4人
地区社協				1人	1人		2人
ホットサロン			1人	1人			2人
子育てサロン			1人				1人
高齢者支援C	1人						1人
計	1人	2人	4人	4人	6人	1人	18人

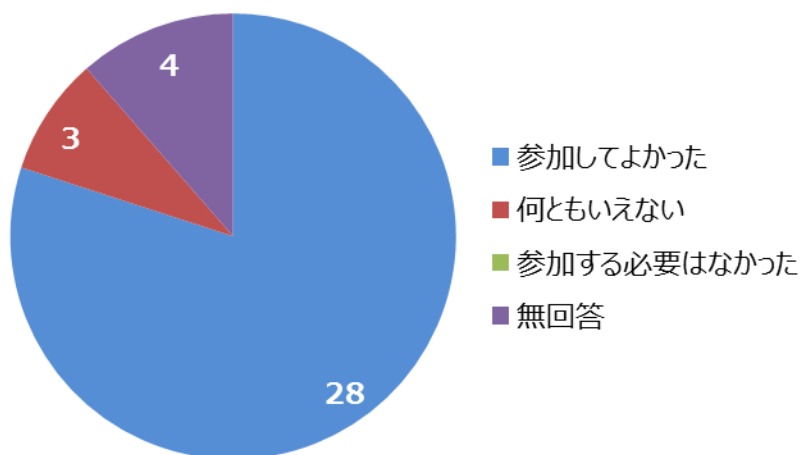
※活動内容については複数回答あり。

※町内会役員には連合町内会長、町内会長、役員等を含む。

【共通】 ワークショップに参加した感想を教えてください。

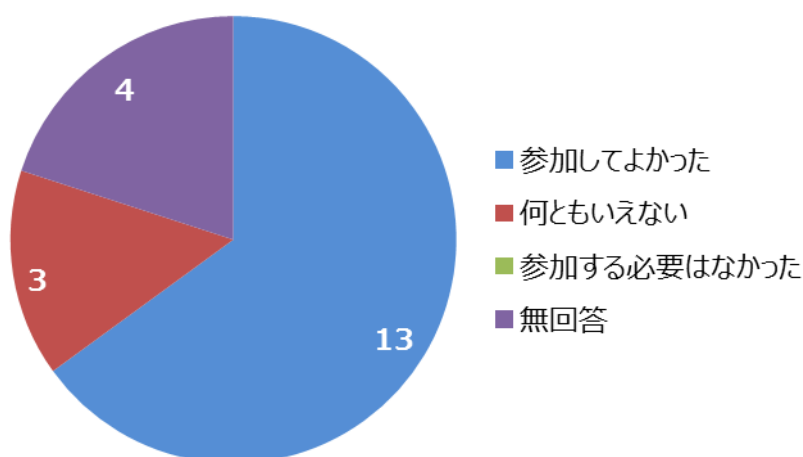
(1) 全体

	人数
参加してよかった	28人
何ともいえない	3人
参加する必要はなかった	0人
無回答	4人
計	35人



(2) 地域住民のみ

	人数
参加してよかった	13人
何ともいえない	3人
参加する必要はなかった	0人
無回答	4人
計	20人



※学生は「参加してよかった」が15名（100%）だったので省略。

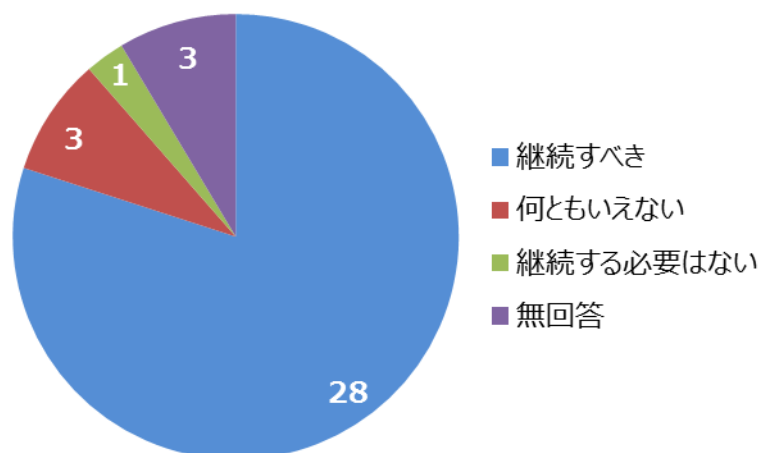
(3) 自由記述

参加してよかった	
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろなお話ができてよかった。 ○各地域の良い所、改善する所とか、いろいろ問題を抱えている所とか聞いた所。 ○いろいろな話が出て楽しい。 ○地域からの多くの意見を聞くことができた。 ○いろいろな意見を聞くことができた。 ○地域の情報が得られた。 ○学生さん達の意見が聞けてよかった。他地区の実情が少しでもわかった。 ○各地区の良い点、欠点等わかりやすくよかった。
学生	<ul style="list-style-type: none"> ○普段関わることが少ない地域の現状を知ることができた。 ○八戸市のいろんなことが知ることができた。 自分の地元で活かす・活かせることがたくさんあると思った。 ○知らなかった地域について知れたし、改善点を知ることのできることをやっていると思えたから。 ○出身が津軽ということもあって八戸の地域について知らないことがたくさんあり、八戸に住み続けたいと感じました。 ○なかなか知らない地域でしたが、良い点、悪い点を把握できた。 ○自分の地域以外の課題を知ることができた。 ○それぞれの土地の特性がわかった。 ○地域の実情を知れ、課題・良い点を知ることができた。 ○様々な意見を聞けるので良い。生活について、リアルなことが聞ける。 ○参加するたびに新たな発見がある。 ○知らない地域の事情や様々なことを知れた。 ○年配の方との会話が楽しかった。今日話したことが解決していけばいいなと思う。「家で最期を迎えたい」を柱に話を進めていってもおもしろそう。 ○地域の方と一緒に考えることができ、知らなかったこと、新たな発見があった。 ○いろいろな地域の特色を聞いた。 ○課題が浮き彫りになった。 また、自分にはなかった良いところがたくさんあった。
何ともいえない	
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ○学生と共に異なる年齢とのワークは良いと思う。 ○初めての参加でどういうふうにするのか全然わからなかったが、若い人に支えられてまずまずどうにかできました。 ○参考になることがなかった。
参加する必要はなかった	
※意見なし	

【共通】 ワークショップは今後も継続すべきだと思いますか。

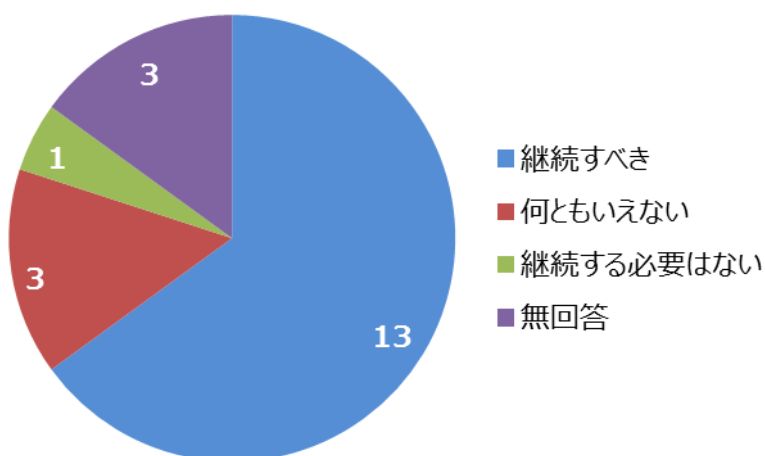
(1) 全体

	人数
継続すべき	28 人
何ともいえない	3 人
継続する必要はない	1 人
無回答	3 人
計	35 人



(2) 地域住民のみ

	人数
継続すべき	13 人
何ともいえない	3 人
継続する必要はない	1 人
無回答	3 人
計	20 人



※学生は「継続すべき」が15名（100%）だったので省略。

(3) 自由記述

継続すべき	
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ○大事なことなので。 ○毎年でなくとも、一年おきとかでもよいと思います。 ○地域の情報が聞けるので良い。 ○参加者募集について早めに!! ○各地区の特色を聞くことができた。 ○ネットワークづくりには、このような話し合いが必要と思われる。 ○他地区のことを知りたい。課題を明確にしたい。 ○必須と思うくらい地域の問題が山積みだと思う。 ○思いが伝わるので!!

継続すべき	
学生	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の悪いところの改善点を確認することができた。他の地域のことも知ることができるので続けるべきだと思う。 ○話し合うことによって考え、活かし、学ぶことができるから。 ○八戸のためにやれることをできるから。八戸をよりよくするために必要。 ○若い人が感じることで、高齢者の方が感じることで意見を交換できる場になっているから。 ○大切な交流だと思うから。 ○良い機会になっているので。 ○住民主体で住み良い「マチ」をつくっていくべきだから。 ○同じ地区でも一度ではなく、2回くらい行ったほうが良いと思う。 ○課題やマイナス面が少しでも改善できるので良いと思う。 ○八戸について知ることができるから。 ○各地域の人々が話し合うことで気づくこともあり、今後の生活も変わってくると思う。 ○課題のピックアップ、解決方法を話すことも大事だし、世代間交流の場にもなっていて良い。地域のことを知る良いきっかけでもある。 ○若い世代と高齢者の方々が一緒に活動することで、双方の意見を聞くことができ、よりよい地域にしていくことができる。 ○いろんな地域の改善点やいいところを知れる。
何ともいえない	
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ○学生（若い人）が地域の実情を理解できる
継続する必要はない	
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ○今日参加してみて、あまり必要がないような気がする。地域ごとに話し合ったほうが良いような気がする。

【共通】 ワークショップの改善点があれば教えてください。

地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ○これでよいのではないのでしょうか。 ○トランプなどの使用法など、学生にわかっても一般人（高齢者）は慣れないのでわかりにくい。 ○テーマの絞込みが必要と思う。 ○もう少し住民が参加しやすい開催方法があればよかったです。実際に参加したけど、会場が遠くて無理との声もありました。近くの地域をまとめて公民館等で開催する等。 ○もっともっと市民の声をすいあげてほしい。
学生	<ul style="list-style-type: none"> ○もう少し時間がほしい。 ○6人以上だと、テーブルの座る位置によって話しづらい。 ○住んでいる地域の人（一般）の方がもっと来れば、もっと良くなる。 ○資料の字が小さいのがあって、見にくい人がいるのでは。 ○時間が過ぎる。

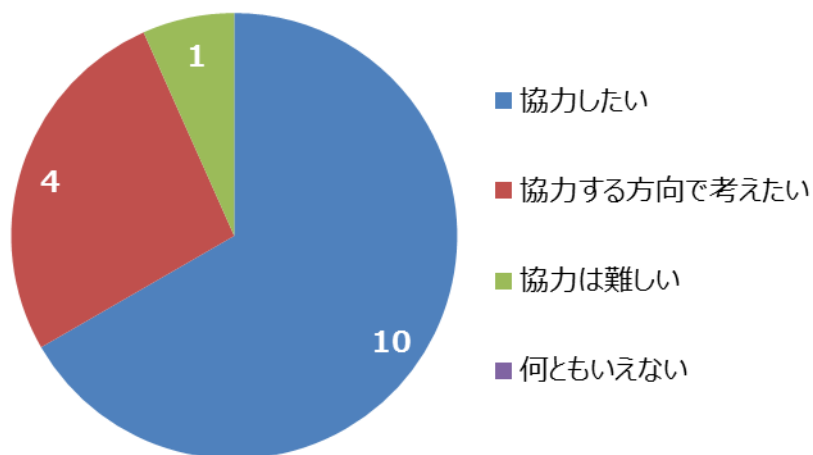
【地域住民】 学生が参加したことについて思ったことを教えてください。

【学生】 地域の方と接して思ったことを教えてください。

地域住民	<ul style="list-style-type: none">○よかったと思う。○大変良いと思います。やはり、これからは若い者たちがんばってもらいたいと思います。○礼儀正しく、私共年配者が見習うべきことが多かった。○学生の参加は、とても進んで何ごともしっかりしてくれるので良い。○私ら 70 歳以上の人と若い方と話してエネルギーをいっぱいもらった。○若い年代からの貴重な意見が聞けた。○地域について一緒に考えてくれてよかった。卒業後も八戸に残ってほしいです！○大変良かったです。○質問が少なかった。○世代、地域を越えて意見交換できることは大変良い。○若い人の意見が聞けてよかった。○地域住民ではない見方ができるのでいいと思います。○新たな視点、気づきがあって大変良かったです。○しっかり自分の意見を持っていて、すばらしいと感じた。物怖じせず積極的な姿勢に好感が持てる。○とても良い発言だと感心しました。今後もいろんな所で参加してほしい。○今後の勉強にもなると思う。
学生	<ul style="list-style-type: none">○地域の方から、その地区のことについてたくさん教えてもらい勉強になった。○老後が一番を考えて生活している。その中で、自分らができることをたくさん見つけ出していきたいと思った。○勉強になったことがたくさんありました。○勉強になった。○ニーズは地域のよって違うなと感じました。○世代の違いを体験できる。○様々意見があり、学びが深くなる。○新たな発見などがあり、話をしていて楽しかった。○とても元気で、地域のために活動している方が多いと思った。○とてもいい人達。○密接で現実的な意見を聞くことができた。地域住民の人と話すことはとても大事だと思った。

【学生】 ワークショップに参加した地域の方々は様々な活動をしています。
もし、地域の方から「協力してほしい」と言われたら、どう思いますか。

	人数
協力したい	10人
協力する方向で考えたい	4人
協力は難しい	1人
何ともいえない	0人
計	15人



■自由記述

協力したい
<input type="checkbox"/> もし可能であれば民生委員と話し、理解することにプラス、また違う視点を持った職業の人とも話し合う機会があれば良い。 <input type="checkbox"/> 交通費が出るとよい。【2人】 <input type="checkbox"/> 知識がほしい。 <input type="checkbox"/> 勉強会など、知らない地域のことを知りたい。 <input type="checkbox"/> 事前勉強。
協力する方向で考えたい
<input type="checkbox"/> 見学をセッティングしてほしい。 <input type="checkbox"/> 交通費が出るとよい。 <input type="checkbox"/> 事前に勉強会をしてほしい。
協力は難しい
<input type="checkbox"/> 用事を優先したい。

【共通】 その他、ご意見・ご感想がありましたら、お聞かせください。

地域住民	<input type="checkbox"/> 初めてですが、出席できて良かったと思います。 <input type="checkbox"/> 研修の開始時間は良いとして、終了時間を守っていただきたい。 <input type="checkbox"/> 他地区の実情を聞かせてもらえて、「あっそういう考えもあるんだ」又は「こんなこともやっているんだ」と楽しい発表でした。ありがとうございました。 <input type="checkbox"/> 行政へ届けてください。 <input type="checkbox"/> 市川地区なら、上長地区なら、下長地区なら、とことん地区のみ同士でグループワークしてほしいと思う。 <input type="checkbox"/> 行政と市民とのカミングアウトがあるといいかもと思う。
学生	<input type="checkbox"/> 良い機会をありがとうございました。 <input type="checkbox"/> 午前中にやってほしい（もう少し早い時間で行ってほしい）。 <input type="checkbox"/> 需要があるので、ワークショップを継続してほしい。

平成 30 年度 地域における高齢者の社会的居場所等に関する調査の 進捗状況について

I 経緯

第 3 回協議会においてまとめた「生活支援体制の整備に関するニーズへの対策」の一環として、高齢者の居場所づくりに関する方策を検討するための基礎資料を得ることを目的に、小柳達也氏（八戸学院大学）、社会福祉法人白銀会、八戸市が協力して調査を行うこととした。

なお、本調査は八戸学院大学研究倫理委員会での承認を受けてから実施している。

II 調査概要

1 目的

地域における高齢者の居場所へのニーズやその充足のための実践について探索的に明らかとすることを目的とする。

2 調査方法

社会福祉法人白銀会「地域交流スペースそよ風」を利用する住民約 50 名及び同法人の同事業所での業務に携わる職員に対してアンケート調査を実施する。

※質問紙は別添

3 調査期間

平成 30 年 9 月～同年 10 月

4 調査結果の分析方法

単純集計、クロス集計、統計的検定、ロジスティック回帰分析、テキストマイニング分析、理論的分析等を予定している。

III 進捗状況

1 そよ風利用者 48 名、そよ風に従事した白銀会職員 25 名から回答があり、現在入力及び分析作業中。

2 集計作業が一段落した段階で、白銀会職員を交えた中間報告会を開催し、現場の生の声を重ねて聴取したうえで最終報告（案）をまとめ、当協議会に諮ることとしたい。

参考 アンケート回答者の属性

《そよ風利用者》

性 別：男性 14 名 / 女性 34 名

年 齢：65 歳未満 3 名 / 65～74 歳 14 名 / 75 歳以上 31 名

居住地：ほとんどが白銀地区

《白銀会職員》

性 別：男性 6 名 / 女性 19 名

年 齢：20 歳代 2 名 / 30 歳代 8 名 / 40 歳代 5 名 / 50 歳代 8 名

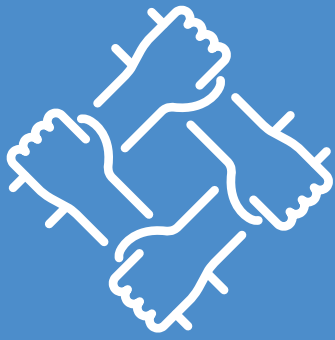
60 歳代 1 名 / 不明 1 名

部 署：デイサービス 8 名 / 居宅（ケアマネ）4 名 / グループホーム 10 名

ケアハウス（軽費老人ホーム）3 名

職 種：介護士・寮母 17 名 / 看護師 2 名 / 介護支援専門員 4 名

相談員 2 名



平成30年度

高齢社会フォーラム in 八戸

PROGRAM

12:30 受付・開場

13:00 開会挨拶 (内閣府・八戸市)

13:15 表章式 (エイジレス章及び社会参加章) / 活動事例発表

14:30 基調講演

参加無料

誰もが 生きがいを持ち、 活躍する地域へ

人生100年時代のエイジレス社会とは

高齢化するコミュニティでは、高齢者自身が地域の支え手として活躍することに加え、その気持ちを他の高齢者、若者、民間団体、行政等により、社会全体でサポートする地域づくりが重要です。人生100年時代といわれる中で、多世代が支え合い、年齢にかかわらず誰もが活躍できるエイジレス社会を構築するためにはどうしたらよいか、実践事例も踏まえながら、共に考えていきましょう。

日時

平成30年 10月12日(金)
13:00~16:30 (12:30開場)

会場

八戸市公会堂
文化ホール

定員
300名

16:30 閉会

主催 / 内閣府、八戸市
後援 / 文部科学省、厚生労働省、青森県

裏面の申込書にてお申し込みください

高齢者から発進! 世代をつむぐ、 三方よしの地域づくり



藤原 佳典

東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム 研究部長

PROFILE

北海道大学医学部卒、京都大学大学院医学研究科修了(医学博士)。2004年より高齢者の社会貢献型ヘルスプロモーション研究の一環として、世代間交流型絵本の読み聞かせシニアボランティアプログラム「りぶりんと」を開発し、高齢者の健康増進と子ども・子育て世代、地域へもたらす多面的効果を実証した。NPO法人りぶりんとネットワーク理事として全国15自治体で、絵本の読み聞かせプログラムを展開中。2011年より現職、東京都健康長寿医療センター物忘れ外来兼務。多世代共生の地域づくり・ソーシャルキャピタルの視点から高齢者の社会参加と介護予防・認知症予防について実践的研究を進めている。日本老年医学会評議員、日本老年社会学会理事、日本世代間交流学会副会長、内閣府高齢社会対策の基本的在り方等に関する検討会委員他、多数の自治体の審議会座長を歴任。

15:20 行政施策説明 (八戸市)

15:30 パネルディスカッション

シニアが輝く、シニアを 輝かせる地域づくり



コーディネーター

小柳 達也

八戸学院大学健康医療学部講師
岩手県立大学客員准教授
博士(社会福祉学)

PROFILE

日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科ビジネス・マネジメントコース及び岩手県立大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻博士後期課程を修了。独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園企画研究部研究課非常勤研究員、八戸学院大学人間健康学部助教等を経て、現職。

社会活動として、ボラーノ広場(岩手医療福祉情報化コンソーシアム)シニアのアクティビティ支援部会部会長、八戸市健康福祉審議会委員(介護・高齢福祉専門分科会委員及び障がい福祉専門分科会副専門分科会長)等を務める。日本社会福祉学会等の学会に所属。

■パネリスト (50音順)

池田 右文

株式会社 池田介護研究所 代表取締役

今野 千晴

社会福祉法人白銀会グループホーム
八戸グリーンハイツ 管理者

中里 充孝

八戸市福祉部高齢福祉課長

前田 洋子

公益社団法人八戸市シルバー人材
センター 理事長

■コメンテーター

藤原 佳典

参加申込書

平成30年度

高齢社会フォーラム in 八戸

平成30年度高齢社会フォーラムin八戸に参加希望の方は、
WEBサイト、FAXまたは郵送にて下記宛先までお申し込みください。
本フォーラムは、全日参加を原則としております。
受付確認後に「参加証」を発送いたします。

※応募は先着順とし、定員になり次第締切いたします。

お申し込み方法



下記URLよりお申し込みください。

<https://form.os7.biz/f/517f40bc/>



下記申し込み欄にご記入の上、送信してください。

03-3597-0171



下記申し込み欄にご記入の上、次の宛先に郵送してください。

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-7
日比谷U-1ビル19階

平成30年度 高齢社会フォーラム事務局 (MC&P内)

八戸市公会堂
文化ホール

八戸市内丸1-1-1



- バスでお越しの方 八戸市営バス・南部バス「本八戸駅」
「市庁前」下車徒歩5分
- 自動車でお越しの方 八戸駅から20分、八戸自動車道八戸I.C.から15分
- 鉄道をご利用の方 東北新幹線八戸駅にてJR八戸線に乗り換え、
本八戸駅で下車徒歩8分

参加者氏名	ふりがな	年齢	歳
所属団体名		所属部署・役職	
電話番号		FAX番号	
Eメール			
住所	〒		

これまで「高齢社会フォーラム」に参加したことがありますか？ ある()回 ない

「高齢社会」について、疑問に思っていることや伝えたいことなどを自由にお書きください。

手話通訳は必要ですか	<input type="checkbox"/> 1. 必要である <input type="checkbox"/> 2. 必要でない	要約筆記は必要ですか	<input type="checkbox"/> 1. 必要である <input type="checkbox"/> 2. 必要でない
------------	---	------------	---

※個人情報は本フォーラム以外の目的では使用いたしません。

お問い合わせ

平成30年度 高齢社会フォーラム事務局 (土日祝を除く、平日9時~18時)

TEL. 03-3597-0172 FAX. 03-3597-0171 E-mail. koureisyakai@mcp.co.jp

高齢社会フォーラムにおける提言事項について

I 目指す姿

- 「人との交流の場や集える場がある」
- 「自分の役割や居場所がある」
- 高齢者にとって… 「日常的に話し合える仲間がいる」
- 「地域貢献、社会貢献できるような環境にある」
- 「趣味や楽しみなどの生きがいを持てる」

II 現状

「一人暮らし高齢者の増加」「地域の繋がり希薄化」などにより、かつてのように家族や近隣住民が緩やかに見守ったり、世話をやいたりする状況が減ってきている。

その結果、「孤独な人はより孤独に」「内にこもりがちなのはより内に」ということになり、「社会的役割や居場所の喪失」「心身機能の低下（認知症の発症・要介護状態）」「気分の落ち込み」などが懸念されるようになってきている。

III 今後の施策の方向性

- 1 地域や社会全体で高齢者を孤立させないように、居場所づくり、仲間づくり、役割づくり、生きがいづくりに取り組む。 ※さりげなく手を差し伸べられる状況が望ましい。
- 2 高齢者を支援すると同時に、高齢者自身の活力を生かす。

IV パネリストからの提言

項目	内容
多分野を包摂したネットワークづくり	地域の団体やネットワークが乱立している状況にあるため、分野横断的なネットワークを構築してはどうか。
住民活動や住民組織への勧誘	参加意向がある方を確実に活動につなげるための仕組みと、各団体の活動を周知するための取組が必要ではないか。
シニアボランティア人材バンクの創設	社会貢献活動やボランティア活動の意向を持つ高齢者を登録する人材バンクを設け、各種地域活動の人材として活動する機会を増やす。
第2の人生における社会的役割の獲得をサポートする仕組みの整備	定年退職で社会的役割を失ってしまうのではなく、切れ目なく再就職やボランティア登録などによって新たな役割を獲得できるような仕組みが必要ではないか。
老人クラブ、鷗盟大学、シルバー人材センターの連携強化	各団体が構成員の減少に悩んでいるため、イベントやクラブ活動等の交流を通じて活性化を図ってはどうか。
◎高齢者の声を聞くためのワークショップやアンケートの実施	高齢者のことは高齢者に聞くべきではないか。アンケートだけでなく、直接耳を傾ける場を設けてはどうか。

項目	内容
◎シニアカフェの創設	地域の高齢者が気軽に立ち寄って、他者と交流したり、簡単な運動をしたり、文化活動ができるような場を設けてはどうか。
◎世代間交流と社会的役割の機会の創設	高齢者が小学校で昔の遊びを教えるなど、世代間交流しつつ役割を感じることができるような取組をしてはどうか。
◎市民全体を巻き込んだ地域包括ケアシステムの推進	地域包括ケアシステムを実現するために、市民全体を巻き込んでいくための方策を実施する必要があるのではないか。

※第3回協議会で定めた「生活支援体制の整備に関するニーズへの対策」と関連がある項目に◎印

IV 検討事項

- 1 高齢社会フォーラムで提言された内容の所感について
- 2 提言内容のうち生活支援体制整備事業の枠内で対応を検討すべきことについて
(次回以降の協議会で議論を深めていく項目について)

生活支援体制の整備に関するニーズへの対策

ワークショップ等を通じて把握した住民のニーズやアイデアと八戸市生活支援体制整備推進協議会での意見を踏まえ、今後の対策案を以下に整理した。

【対策 1】ワークショップの実施（今年度の内容で継続）

概要	住民ニーズの把握や生活支援体制整備に対する意識を涵養するため、今年度試行したワークショップを、来年度から本格実施する。
具体的取組み	①平成 29 年度中にワークショップの企画内容を充実させるため、2 月頃に 1 回実施（対象地区未定）することとしたい。 ②平成 30 年度は本格的に 4 回実施する。 ※多様な世代に参加してもらう方法については要検討。

【対策 2】生活支援サービス事業者の実態調査

概要	市の取組を考える基礎資料とするため、市内の生活支援サービス事業者（配食や宅配などを行う企業及び、食料品や役務の提供を行っている障がい福祉施設など）に対して、主なターゲット、サービスの供給量、広告の方針などについて問う調査を実施する。
具体的取組み	事業者質問紙を郵送し、平成 28 年度調査と関連させながら分析のうえ、当協議会へ報告する。

【対策 3】生活支援サービスの情報集約と小冊子の作成

概要	高齢者自身や地域の関係者が住民からの相談に応じる際の参考にできるよう、生活支援サービスに関する情報をまとめる。
具体的取組み	①生活支援サービス事業者の実態調査を通じて、事業内容に関する情報を収集する。 ②未知の事業者が存在する可能性があるため、生活支援サービスの情報提供を呼びかける記事を市ホームページに掲載する。 ③事業者の了解を得たうえで小冊子を作成する。 ④作成した冊子の内容、配布方法、更新方法については協議会に諮る。 ※町内会、民生委員、地区社協、老人クラブ、地域包括支援センター等への配布と市ホームページへの掲載などを想定。

【対策 4】生活支援サービス事業者と情報交換できる仕組みの整備

概要	生活支援サービス事業者と住民ニーズをつなぐための仕組みを整備する。
具体的取組み	①生活支援サービス事業者（有志）のメーリングリストを作成し、市が把握した住民ニーズ等を適宜伝達する。 ②生活支援サービス事業者にワークショップへの参加を呼びかける。

【対策5】生活支援体制整備事業・地域包括ケアシステムに関する啓発活動

概要	生活支援体制整備事業を推進するために、地域包括ケアシステムに関する周知活動を行う。
具体的取組み	ワークショップのまとめ（広報紙のようなもの）を作成し配布する（生活支援体制整備事業に関する市の取組を知らせるお知らせ）。

【対策6】高齢者のごみ捨て支援

※詳細は資料6

【対策7】高齢者の居場所づくり

概要	居場所に関するニーズの把握と先進事例の調査を行いながら、具体策を検討する。 ※市内における先進的取組として、社会福祉法人白銀会の「そよ風」があり参加者が増加傾向にあるという。
具体的取組み	①そよ風の活動を視察 ②参加者に対してアンケート調査し、参加理由や居場所に対する需要を調べる。 ③当協議会において検討

【対策8】若い世代が生活支援体制の整備や地域包括ケアに興味を持ってもらうための活動

概要	ワークショップ参加者からは「ワークショップそのものが様々な世代に対する啓発活動にもなっている」という意見も出ているが、特に若い世代が生活支援体制の整備等に興味を持ってもらうための取組を検討する。 ※市社会福祉協議会が「三世代交流事業」「ボランティア推進校事業」「出前講座」「福祉体験学習サポーター」に取組んでおり、その枠組みで一定の対応はしているものと考えている。
具体的取組み	関係機関が実施している既存の取組に協力する方向で調整してはどうか。